



## 所長に就任して



所長 平良 健康

平成17年4月1日付で沖縄県衛生環境研究所長の辞令をいただき、就任いたしましたので、一言ご挨拶を申し上げます。

私はもともと臨床医でしたが、平成6年に県庁に入り、沖縄県環境保健部、福祉保健部の行政に8年間たずさわり、その後3年間

を離島医療(沖縄県離島医療組合公立久米島病院)に従事していました。このたび当研究所に赴任して県庁の頃から旧知の職員が多いことを知り、嬉しく思うと共に、業務理解を助けていただいています。

ご案内のように沖縄県衛生環境研究所の前身は、米軍占領下の1946年設立に始まり、琉球衛生研究所から1970年代の公害衛生研究所を経て、90年代半ばから現在の名称になりました。社会変化の求めに応じて研究調査対象も変わってきました。全国的な視点から見ても特色といえるのは、沖縄県の地域特性を反映して調査研究、試験研究、指導研修、疫学情報集積解析が行われてきたことです。

毒蛇ハブの研究は1960年に遡りますが、現在では咬症治療において副作用の少ない抗毒

素開発の研究にも鋭意取り組み。海洋性危険生物ハブクラゲなど観光立県を安全にするための生態研究や危害防止対策研究。また農地開発等から流出する赤土が珊瑚礁環境に与える影響を防止するため条例が制定されましたが、その実態調査研究を継続。米軍基地に関連する環境汚染(水、土壌、大気、放射能等)の調査研究等。加えて新興感染症、輸入感染症、健康危機管理に対応できるよう研究体制を整えていくことがこれからの使命になります。

研修については、発展途上国からのJICA研修員に公衆衛生、環境分析コースを1983年から受け入れ、その数は33カ国116人に達しました。県職員の研修の場でもあり、資質向上に貢献できるよう機能を高めたいものです。

成人病疫学調査は30年余の蓄積をもって沖縄の寿命の推移を調べ、長寿県の課題を解決するための必須の資料を整えてきました。

沖縄県は地理的に中国大陸、台湾に近いことから、ヒトやモノの交流が進むことが想定され、海洋大気環境問題や、さまざまな健康危機管理を要する問題等が重要性を増してくるものと思われます。どのような時代環境の変化にも問題意識を磨き、柔軟迅速に対応できるよう体制づくりが求められてきます。また得られた知見が行政情報として県民と共有されることも考慮して本庁行政とともに努める必要があります。よろしくお願いたします。



ハブ毒の研究



赤土堆積モニタリング



農薬分析



ウイルス分離



JICA研修

目 次	
所長に就任して.....	1
汚染大気移流による「煙霧」「もや」.....	2
ウエストナイルウイルスの侵入に備えて.....	3
ハブクラゲ発生注意報発令中.....	3
脳卒中を防ごう!.....	4
残留農薬の規制に対する取組みについて.....	4